

## 12月17日 日本共産党演説会が 開かれました



12月17日、塩川てつや衆議院議員を迎えて日本共産党演説会が開かれました。会場となった総合福祉センター「絆」には、ホールいっぱいの130名が参加しました。



地元押延のHさんが大名議員応援のあいさつにたちました。

Hさんは同じ時期に保母の資格を取り、より良い保育めざして活動してきた経験や、大名議員が真っ先に子どもの医療費無料化や30人学級にとりこんで実現してきたことを紹介し、大切な議席を引き続き確保してくださいと訴えました。

大名議員は、4年間の実績に触れ、震災・原発事故後の村民の暮らしを守るために全力をつくす決意を表明しました。原発問題では、議員が行った住民アンケートで東海第二原発の廃炉を望む人が6割に及び、87%が自然エネルギーへの転換を求めている声に応え、老朽原発の廃炉を求めると同時に働く人々の雇用をしっかりと守る立場を力説しました。

村が大幅な国保税値上げが検討されているについてはきっぱり反対し、食と農業、国民皆保険制度まで突き崩すTPP参加を許さないこと、危険な産廃焼却施設を絶対に阻止してきれいな環境を守ること、そして南台団地の宅地被害の支援に全力をつくすとして、4期目の議席確保への支援を訴えました。



塩川議員は、原発立地村での村議選が全国的な意味を持つとして、住民が廃炉を求めるのかどうか最大の争点と訴えました。また、野田内閣がすすめる「社会保障と税の一体改革」の中身が公約違反の福祉切捨て、年金引き下げ、消費税の増税であることを厳しく批判し、暮らしを守るために日本共産党の2議席がなくてはならないと、参加者の奮闘を呼びかけました。